

平成26年度 静岡精華幼稚園評価書

2015. 2. 27

A そう思う B 大体そう思う C あまりそう思わない D そう思わない

精華幼稚園教育目標		自己評価	学校関係者評価委員会から		
ひとり立ちする子			評価	意見	
三つの重点	1 経験・体験の幅の拡大	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちの遊びを広げ深めるために、種々の面で子どもたちの経験・体験の幅を広げさせようと試みている。	A	A	・幼児教育に対する幼稚園の根本姿勢がうかがえる。 ・遊びに限らず、子どもたちは経験を積み重ねながら成長していく。重点目標に掲げるに値する適切な評価観点である。
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは、期待したとおりの広がりや深まりを見せてきている。	A	A	
	2 人間関係調整力の伸長	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	A	・子どもたちが醸し出す親近感の本物だ。私たち自身もごく自然に受け入れられていると感じる。幼稚園に遊びにやってくる小さい子たちも不安感を抱かなくてすむ。力がしっかりと根付いていることが分かる。
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	A	
	3 聞く態度・聞き取る力の育成	【教師の営み】精華幼稚園は、日々子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	A	・子どもたちは、本当に上手に話が聞ける。集中力がすごい。教師たちの日頃の姿勢が今日の子どもをつくっている。小学校へ進学してからの大きな力となる。
		【子どもの状況】子どもたちのここといふとき話をしっかり聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	A	A	

教育目標具現に向けて育てたい七つの子ども像	1 自由遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	A	・精華幼稚園の園庭はいつ来てみてもにぎやかで、子どもも教師も楽しそうに遊んでいる。 ・年長児、年中児、年少児、満三歳児が、入り交じって遊んでいる。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはそれぞれに遊びを楽しんでいる。	A	A	
	2 集団遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりや促したりする。	A	A	・子どもたちと一緒に砂場で山や川を作っている先生、子どもたちのために長縄を一生懸命回している先生、子どもたちと手をつないで「花いちもんめ」に興じている先生など、幼稚園の園庭に子どもたちと遊ぶたくさんの先生たちの姿が見受けられる。
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	A	
	3 園行事に楽しく参加する子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で、行事に子どもの思いを反映させている。	A	A	・教師が語りながら子どもたちを行事の楽しさの中に誘い込み、次第に子どもたちを行事の楽しさの中心に押し立てていっていることがよく分かる。
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	A	
	4 自分のことは自分でやれる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添い、子どもたちにできた喜びを味わわせてあげようと努めている。	A	A	・着替えや片付けなど、子どもの脇で子どもがなし終えるのを根気強く見守る教師の姿を目にする。 ・年長児が年少児の着替えを手伝っている姿をよく見かける。
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人ですり抜こうとする意欲が増してきている。	A	A	
	5 美しくあいさつができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら、挨拶のこたえ返しを誘っている。	A	A	・朝、先生たちが両手を広げて、本当に嬉しそうに、「○○ちゃん、おはよう。」と呼びかけている。 ・私たちが幼稚園を訪れたとき、「おはよう。」と声をかけてくれる子どもたちが何人もいる。。
		【子どもの状況】子どもたちからの「おはよう」「さようなら」の返りが増えてきている。	A	A	
	6 美しくお話しできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にうなずきながら子どもの思いをしっかり受けとめる。	A	A	・先生と子どもたちが談笑している姿をよく見かける。先生たちに笑顔が溢れ、子どもたちに安心感を与えている。 ・先生たちに安定感が感じられる。この安定感が、子どもの声に耳を傾け、子どもの心に響く言葉を発する源になっているのだろう。
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、」と話し出す。	A	A	
	7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇（経験・体験）の広がりや求めて、積極的に園外保育に出かける。	A	A	・近くにある駿府城公園を、まるで自園の庭のようにうまく活用している。 ・園外保育の道中は全て社会体験という考え方は的を射ている。周辺の道路も商店街もそれぞれ重要な存在になる。
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がりや、確かな歩みを見せている。	A	A	